

制服の歴史

▶ 明治35年(1902年)開校時

質素を旨とする学校の方針から、上着は木綿の長袖、袴はえび茶の木綿物で、袖に波形の白線が一本ありました。履き物は、紅緒の下駄です。

- 1902年の主なできごと
- ・キューバがアメリカ合衆国から独立
- ・エジプト、アスワンダム完成



▶ 明治38年(1904年)

袴の波形の一本線が、二本(ツーライン)の白線になりました。本校のニックネーム「ツー」の起こりです。この後、昭和10年まで30年間、県民から親しまれました。

- 1904年の主なできごと
- ・日露戦争: 日本海軍が旅順港外のロシア艦隊を攻撃。事実上の日露戦争開戦。
- ・第3回夏季オリンピックがセントルイスで開催
- ・与謝野晶子「君死に給ふこと勿れ」掲載



▶ 大正8年(1919年)

長袖を「筒袖」に、下駄ばきを「靴」に改めるように奨励されました。「筒袖」は袂が無くて、筒のようになった袖のことです。生徒たちはたちまちこれに応じて新しい服装に変えていきました。

● 1919年の主なできごと

- ・白ロシア、ソビエト社会主義共和国樹立
- ・第一次世界大戦の終結に関するパリ講和会議開催



▶ 大正12年(1923年)から

和服から洋服への過渡期。洋服仕立ての夏服が認められ、やがて冬服にも及びました。広い折り襟に黒線二本、上着とスカートも夏は、ねず色のポプリン、冬は紺のサージ。スカートには、伝統の白いツーラインが付きました。

● 1923年の主なできごと

- ・関東大震災発生
- ・トルコ共和国成立
- ・ネパールがイギリスから独立



▶ 昭和10年(1935年)

襟と袖口の黒線が白の親子線に変え、スカートのツーラインが廃止されました。今の制服にずいぶん近くなりました。

●1935年の主なできごと

- ・NHKが国際放送を開始
- ・土讃本線三縄-豊永間開通(最後の「陸の孤島」高知県が鉄道で結ばれる)
- ・初の年賀郵便使用切手発売開始



▶ 昭和17年(1942年)

当時のアルバム写真から。左の胸ポケットに菱形の校章を付けています。

●1942年の主なできごと

- ・関門鉄道トンネル開業(貨物列車のみ)
- ・南太平洋海戦



▶ 昭和12年(1937年)

洋風や贅沢をやめて、非常時の服装として「もんぺ」が推奨されるようになりました。上の写真は、戦争が激しくなった当時、土佐女子校東の道路で行われた防火訓練のようすです。敗戦後はしばらくの間、物資欠乏のために各学校とも随意のものを使用していました。

●1937年の主なできごと

- ・ヘレン・ケラー来日
- ・パリ万国博覧会で日本館が設計賞を受賞
- ・第1回プロ野球オールスター戦開催(阪神甲子園球場)



▶ 昭和26年(1951年)

昭和10年制定の制服が復活しました。冬服は上下とも濃紺のサージ。ネクタイは濃紺のスカーフを二つ折りにし、ネクタイ止めには、高校生は白色でSenior、中学生は赤色でJuniorの刺繍をしました。

● 1951年の主なできごと

- ・第1回NHK紅白歌合戦放送、以後恒例化
- ・日本航空設立
- ・日本国との平和条約
- 日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約締結



▶ 現在の制服

夏服の襟やカフスは、洗濯のために取り替えできるように仕立てられていましたが、繊維の発達は目覚ましく、今では丸洗い可能な制服が販売されるようになりました。歴史の移り変わりの中で受け継がれ、そして洗練されたデザインの制服は、上品で落ち着いた印象を与えてくれます。

